

第三十七回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史探訪 「よこはま古民家」とその周辺歴史散策

平成21年4月2日(木) (集合;市営地下鉄線「舞岡駅」改札口9時50分・解散15時頃。

各自弁当持参下さい。

「Ⅶ」舞岡公園・小谷戸の里(休日;第3月曜日,祝日の場合は翌日,12/29~1/3)

指定管理者;舞岡公園・小谷戸の里運営委員会

住所;戸塚区舞岡町1764・電話;045-824-0107・FAX;同左)

最寄り駅;市営地下鉄線「舞岡駅」徒歩25分。

特徴;旧金子家住宅・田園風景の里にたたく明治後期の古民家・たくさんの田んぼのある里山。

行程;Aコース(本郷ふじや公園コース)

①舞岡公園-②舞岡ふるさと村虹の家-③長久保池・大原谷池-④舞岡の谷戸-(北本郷台・赤坂公園)-⑤飛び石-⑥西谷戸稲荷-⑦滝の分・水車小屋跡・滝跡-⑧小菅ヶ谷名主田中家長屋門-⑨長光寺-⑩神子の坂-⑪春日神社-⑫江戸力士春日森供養塔-⑬風化石仏(溶け仏)-⑭大聖寺-⑮七石山横穴墓遺跡-⑯公田の謂われ碑-⑰正翁寺-⑱北の大道名主柳下家-⑲庚申道標跡地-⑳南の道名主小岩井家-㉑鍛冶ヶ谷八幡-㉒本郷ふじや公園(長屋門・主屋・ふじやま富士講碑・竹林)

Bコース(下倉田コース)

①舞岡公園-②長泉寺-③常玄寺-④火の見櫓-⑤桜堂交差点・庚申塔・道祖神-⑥長福寺-⑦舞岡八幡-⑧舞岡ふるさと村虹の家(宮下橋・双体道祖神・宮根橋・庚申塔・小さな道祖神・坂下口・庚申塔)-⑨舞岡谷戸・舞岡川・小矢戸の里-⑩かまら古道跡・椎の大木・庚申塔-⑪馬頭観音・古御堂(観音堂跡)-⑫薬師堂-⑬永勝寺-⑭南谷大わらじ→→バス停「南谷」→戸塚駅(約10分)・大船駅(約20分)着。

注;行程に付いては再検討する事例「本郷台→小谷戸→舞岡駅,本郷台→小谷戸→本郷台,本郷台→小谷戸→バス上永谷駅等」

Aコース舞岡公園～本郷ふじやま公園

1・舞岡公園

舞岡には縄文時代から人が住んでいた事が、平成3年埋蔵遺跡発掘調査で確認された。しかし、舞岡が歴史に登場するのは鎌倉時代の初期三浦党の支族「舞岡兵衛」(ヒョウエイ)(源平盛衰記に小坪合戦事として頼朝旗揚げ時の活躍描かれ、和田の乱で戦死＝吾妻鏡・敗北越前に逃亡仏門に入ったとも＝朝倉始末記等)という武将の系図、物語があるが、詳細不明。確かで古い記録は、北条氏の御内人(ミウチノト)である南条時光が鎌倉時代後期に書いた文書が現存する。それによれば、舞岡郷の地名と彼の領地が舞岡にあった事が見える。平安時代には舞岡を含む戸塚・北鎌倉地区に山内荘(山内氏開発、名義上皇室八条院暲子(シヨウジ)内親王に寄進)が成立、後の武家政権以降、鎌倉時代の舞岡氏領・南条氏領・室町戦国時代の東慶寺領・江戸時代初期の幕府旗本領として武家権力、有力寺社等の支配を受けた。鎌倉時代の北条氏、北条政権ゆかりの東光寺薬師堂、長福寺政子念持仏、舞岡八幡宮、近世の路傍の石仏その他多く見るものがある。

2・舞岡ふるさと村虹の家(宮下橋, 双体道祖神・宮根橋, 庚申塔, 奥に小さな道祖神・坂下口, 庚申塔)

農業生産施設や研修施設、レクリエーション施設を整備。農家一体となり、市民に結びついた農業の活性化と保全を図る事を目的とする。

3・長久保池・大原谷池

4・舞岡の谷戸

5・飛び石

真相は不明だが富士山噴火(年代不明)の時石が飛んできたと言われ、地元(小菅ヶ谷西谷戸の奥)に言い伝えが残っています

6・西谷戸稲荷

小菅ヶ谷の「花立」鎌倉道の中の道戸塚と下の道弘明寺の重要な分岐点です、宅地開発で消滅する。花立の石仏をこの稲荷に移す、地蔵菩薩石仏(天保3年1832)他。

7・滝の分・水車小屋跡・滝跡

8・小菅ヶ谷名主田中家長屋門

田中家は 350 年あまり前から続く旧家で長屋門も 150 年くらい前に建てられ関東関東大震災にも倒れなかったといわれている。

9・長光寺

菅谷山医王院長光寺と号す。頼朝が永暦の始め(1160)伊豆に流され伊豆の豪族伊東祐親に預けられていた頃、文覚上人も伊豆に流され此所で薬師如来像を刻み祐親に贈ったのが、息子祐清に渡り壽永 2 年討ち死にすると、その子祐光は文治年間(1185~9)家族と共に薬師如来像を守護して鎌倉郡山ノ内庄笠間の里に住み、道意と名乗り先祖の菩提を弔うため嘉禄 2 年(1226)小菅ヶ谷に薬師に雷を本尊とし天台宗東照山医王院を開いた。建武(1334~35)の頃親鸞の教示を承け浄土真宗に改宗、永禄の頃(1558~65)一向一揆を恐れた小田原北条は浄土真宗を弾圧しとうじも破壊されてしまった。元和 7 年(1621)武蔵國稻毛加瀬村移転、寛永 20 年(1643)に小菅ヶ谷の医王院跡に住職善立が住み、天和 3 年(1683)本堂を建立しています。慶長年中(1596~1614)家康が鷹狩りに来た時、薬師如来を拝礼された因縁から山号を親縁山と改号し、その後菅谷山と改めています。後の住職了了は寛政 9 年戸塚に隠居し家伝薬販売を始め本堂の再建他諸施設を整えています。文政 8 年(1825)本堂を再建していますが、関東大震災で傾いたのを修復しています。住職のお話では祐光が小菅ヶ谷に寺を開いたのは小菅ヶ谷殿の墓守をするためだったと云われています。

10・神子の坂

春日神社の巫女が通った坂とか、昔は坂が高く先が見越せる見越しの坂が神子の坂といわれるとかの説があります。

11・春日神社

本郷六か村の総鎮守、平安期に山内首藤氏が創建。本宮は奈良春日大社の分社永禄年(1565)に本郷公田の領主宇部左京亮の子息宇部松菊丸が再建した。藤原一族の祖神・山之内荘園を支配した山内氏。

所見、A「狛犬」目に金属をはめ込む。B「中宮」壮麗な彫刻が刻まれている。C「献歌」板に歌を記し掲示している戸塚宿の江戸文化が此所にも伝えられた記録である

12・江戸力士春日森供養塔

生家の畑の中に有り、石塔には「十一代桐山権平の塔」明治 28 年(1895)、「東京力士・春日森改め」と刻まれている。「春日森」は十両まで昇進し若くして引退親方として晩年を過ごす。

13・風化石仏(溶け仏)

土留めの崖の一部に長年道案内として役目を果たして来た、石仏数基が保存されている。

14・大聖寺

十夜念仏が有名。小菅ヶ谷村名主梅沢与治右衛門勝国ヶ開く、承応 2 年(1653)浄土宗として開山。本堂に上がるには御喜捨が必要です。

所見、A江戸期の寺の様子が解る。B本堂格天井の繪。C「阿弥陀如来様」奥には宗派以外の御仏達が祀られている。D「聖徳太子 16 歳像」他多数。E 古木柘榴・百日紅・樹齡 400 年。

15・七石山横穴墓郡

J R 根岸線延長に際し S 43 年から 3 回に分け横穴墓が調査された、本郷台ホーム付近に 100 基程あった。大集団の先住民が生活していた。西端に 8 基ほど保存されたが裏側の開発と風化で今見える影もない。

16・公田の謂われの碑

本郷台駅出札所前の植え込みに公田の地名の謂われを記した石碑が設置されています。奈良朝時代律令制度による半田收受法にに基づく名残です、詳しくは石碑をご一読下さい。

17・正翁寺

曹洞宗本郷山正翁寺と号す。永禄 7 年伊勢から移り住んだ大谷氏が僧月聖を招き一族のため正翁庵を開創、慶長 6 年(1601)正翁禅寺として開いたという、本尊虚空菩薩。庫裡手前の路地を右に入り突き当たり先左に明暦二年(1656)五月十二日發願の阿弥陀石仏有り、又本堂左に回国供養塔など 3 基が安置されている。

18・北の大道名主柳下家

鍛冶ヶ谷の一部が徳川家旗本の給地として定められた時名主として勤められた旧家です。

19・庚申道標自然石板碑跡

安政 6 年 (1859) 神奈川港(後の横浜港)が開港される、これより 2 年後民費により幅七尺距離廿三間の鍛冶ヶ谷大道北通りが完成、この地に文久元年(1861)然石の道祖供養碑道標が造立され“ぐみようじ横浜道”と刻まれています。平成11年11月1日横浜市地域有形文化財指定になりました。今わ七曲がりバス停脇に移転しました。

20・南の道名主小岩井家

鍛冶ヶ谷大道北通り完成以前は七曲がりからこの道(南の道)を抜けるのが旧道のように。この道の中程に鍛冶ヶ谷村名主を務めた小岩井家があります。

21・鍛冶ヶ谷八幡

創建鎌倉時代とも云うが確かならず、天正 8 年(1580)修造の棟札あり、祭神応神天皇、速玉男命、素戔鳴尊。鍛冶ヶ谷の王子社・天王社を合祀、境内に幾つかの庚申塔あり、寛文 8 年 (1668) 阿弥陀庚申塔は本郷で一番古い庚申塔。配電の袖に弓矢を持つ応神天皇と竹内宿禰に抱かれた応神天皇が刻まれています。冶ヶ谷村の鎮守様です、毎年 9 月には町の方が祭礼を行っています。

22・本郷ふじやま公園・主屋・長屋門・ふじやま富士講碑・竹林

平成 14 年に鍛冶ヶ谷の一角に 9.5ヘクタールの敷地里山・竹林・古民家を配し開園されました。

古民家は旧小岩井家住宅主屋及び長屋門で、江戸時代末期弘化 4 年(1847)創建の寄せ棟茅葺木造平屋建て一部厨子二階建てです。主屋には式台を付けた座敷が設けられ一般農家には見られない格式のある造りです。長屋門とあわせて、創建当時の姿に分元されています。平成 14 年 11 月には横浜市指定有形文化財に指定されました。

公園の山頂に標高 80メートルに 5 基の自然石の碑が建つ、中央に(参明藤開)右に(南無妙法蓮華教)左に(食行身録口菩薩)又最近発掘された(小御嶽権現)があります。寄進者の刻銘等から造年は弘化年間(1844~1847)と推定されます、講中は鍛冶ヶ谷・中野・上野・小菅ヶ谷・桂・公田・今泉があります。

昔は今より数メートル高く、頂上には這い上がる様でした、地震で崩れ今の位置に立て替えました。

昭和40年(1965)頃まで毎年7月24日の草刈や8月1日には祝詞を上げていました。

里山や竹林はふじやま公園ボランティアの方が保護保全に努めています。

Bコース舞岡公園～下倉田

1・舞岡公園

舞岡には縄文時代から人が住んでいた事が、平成3年埋蔵遺跡発掘調査で確認された。しかし、舞岡が歴史に登場するのは鎌倉時代の初期三浦党の支族「舞岡兵衛」(ヒョウエイ)(源平盛衰記に小坪合戦事として頼朝旗揚げ時の活躍描かれ、和田の乱で戦死＝吾妻鏡・敗北越前に逃亡仏門に入ったとも＝朝倉始末記等)という武将の系図、物語があるが、詳細不明。確かで古い記録は、北条氏の御内人(ミウチノト)である南条時光が鎌倉時代後期に書いた文書が現存する。それによれば、舞岡郷の地名と彼の領地が舞岡にあった事が見える。平安時代には舞岡を含む戸塚・北鎌倉地区に山内荘(山内氏開発、名義上皇室八条院暲子(シヨウジ)内親王に寄進)が成立、後の武家政権以降、鎌倉時代の舞岡氏領・南条氏領・室町戦国時代の東慶寺領・江戸時代初期の幕府旗本領として武家権力、有力寺社等の支配を受けた。鎌倉時代の北条氏、北条政権ゆかりの東光寺薬師堂、長福寺政子念持仏、舞岡八幡宮、近世の路傍の石仏その他多く見るものがある。

2・長泉寺(真言宗高野山派・義龍山・本尊, 阿弥陀如来)

ここで寺子屋を開いたと言う師匠裕園(ユウエン)の筆子塚享保6年(1721)・「東海道間延絵図」文化3年(1806)に描かれた六地藏。

3・常玄寺(日蓮宗・法善宗妙満寺派)

元和3年(1617)日誉上人創建。

4・火の見櫓半鐘(神奈中舞岡営業所前)

旧東光寺の半鐘は寛政3铸造(1791)東光寺縁起が書かれている。北条時宗夫人の覚山尼が鎌倉時代に創建した事や本尊薬師如来の由来縁起等。

5・桜堂交差点にあった・庚申塔・道祖神(現在はそばや鎌倉入口左脇) 庚申塔・道祖神・第六天社跡(交差点近く)

庚申塔；1662（寛文2）造立笠付き塔婆形で、舞岡最古のもの、戸塚でも古い方（三番目）。

阿弥陀立像を中心に、その下に三猿が配され、後年の簡略化された庚申塔と比べると見応えがある。

庚申信仰；庚申塚＝庚申待（まつり）＝庚申講＝庚申（さる）猿田彦神を＝本尊、見ざる・聞かざる・言わざる＝庚申会。中国の道教で説く三尸（さんし）説を母体した複合信仰。三匹の三尸と言う虫（後神扱いされる）1匹は上尸首から上・1匹は中尸と言い腹中に・最後の下尸は足に居て、常に人間の犯す罪過阿を監視し、庚申の晩に人間が寝ると、その隙を見て体内から抜け出して天に上り、天帝にその人が60日間に犯した罪過を逐一報告する。それは人間を早死にさせ、自分たちが祀りを受けたい為である。庚申の夜人間が徹夜をすれば三尸は天帝に罪過を報告出来ず早死にを免れる。三回連続して守庚申をすれば、三尸は恐れおののき、七回やれば永久に絶えてしまう、その人は精神安定、身体健やか、生命天地共に長存するという。十干（庚、コウ、かのえ）、十二支（申、サル）合わさる日60日に一度、庚申の日・庚申講。

道祖神（双体）；塞の神・どうろく神・境を守る神・道の神・防寒・除災・縁結び・夫婦和合の神として峠村境・辻などに祀られることが多い。青面金剛、一面六臂（ヒジ）が通例。手には鉾（右中）、輪宝（右上）、弓（左中）矢（左上）、金剛杵（コンゴウジョ・法具・インド武器）、絹策（ケンサク・右下）などを持つ。鉾（矛先・左下）・輪宝（インド転輪王が感じて会得`感得する七宝の一つ・武器・金銀銅鉄を持って理想国を治める）・金剛杵（悟りを求める仏道を表す仏具・武器）・絹策（右下・青・黄・赤・白・黒五色線を撚った索条`サジヨウ・ロープ、鳥獣畏・衆生摂取の象徴）。庚申信仰・三猿と祀られる事多。

6・寺長福寺（臨濟宗円覚寺派・桜岡山・本尊釈迦牟尼仏・政子念持仏・尼將軍守本尊鎌倉郡19番札所 桜堂観音）

観音堂に祀られる、木造等身大十一面観音菩薩（秘仏）の腹篋（ハラゴモ）り観音像は北条政子の念持仏と言われ、行基の作と伝えられる。室町時代迄現在の南舞岡小付近に観音堂があったのでその付近は字古御堂（フルドゥリ）になった。現、観音堂は昭和16年建て替えられたもの、御開帳日2年ごとで、平成19年9月18日。

7・舞岡八幡宮（京都石清水八幡宮勧請・祭礼、毎年4月15日、湯立神楽奉納＝無形文化財的・庚申

塔・水車)

鎌倉時代の乾元元年（1302）に白旗が舞い上がる吉祥があったので石清水八幡宮を勧請し祀ったのが創建と言う。

8・舞岡ふるさと村虹の家（宮下橋，双体道祖神・宮根橋，庚申塔，奥に小さな道祖神・坂下口，庚申塔）

農業生産施設や研修施設、レクリエーション施設を整備。農家一体となり、市民に結びついた農業の活性化と保全を図る事を目的とする。

9・舞岡谷戸・舞岡川・小矢戸の里

舞岡の谷戸（武蔵国＝港南区東半分～海側と相模国＝港南区野庭，日限山～戸塚方面の国境）・舞岡川源流)

小矢戸の里；古民家・WC・昼食・舞岡川支流源流探索・炭焼小屋・耕作体験田んぼ。

かっぱ池・さくらなみ池・宮田池・きざはし池・小矢戸池・長久保池・大原谷戸池・大原おぎ池。

10・かまくら古道跡・椎の大木・庚申塔

庚申塔；舞岡は鎌倉時代以前は腰村と呼ばれ、室町戦国時代には前岡と書かれた実例後世のものなるが、小菅ヶ谷との境のかまくら古道沿いの、この庚申塔（1737/元文2）には前岡の文字が見えます。

11・馬頭観音・古御堂（フルドリ・古御堂観音堂跡，政子の念持仏安置されていた由緒ある場所現在長福寺に移転）

観音堂が桜堂長福寺に移された跡に馬頭観音塔が建てられた。この場所は※鎌倉古道分岐点だった。

ぐみょうじみち（上永谷→弘明寺へ）・野庭道（野庭団地へ）。馬駆け場とも呼ばれ、鎌倉道の尾根を村人達は競馬をしたり、馬頭観音の祭りも合ったと伝う。

12・薬師堂（宮根のあった舞岡最古旧東光寺，現廃寺＝開基鎌倉幕府8代執権北条時宗夫人覚山尼）

昭和54年に本尊，薬師如来（鎌倉時代大仏師運慶作と伝う）を移したところ。22体の石仏も移さ

れた。薬師殿創建年代は不明ですが、石仏などの年代から室町後期頃でないかと言われる。毎年10月12日開帳。

13・永勝寺（天台宗→浄土真宗・龍臥山祥瑞院・本尊、阿弥陀如来、親鸞聖人作、鎌倉初期）

1226（嘉禄2）創建天台宗寺院であった。親鸞が東国布教のため国府津の道場を足場に活動した折り、この寺に逗留（トウリユ）した切っ掛けで浄土真宗に改宗。その後寺は衰えたが、戦国時武田信玄により再建。境内の阿弥陀堂には聖徳太子立像（県重文）安置（高さ127.2cmの寄木造・南北朝時代作か・太子16才の時、父の用明天皇の病氣平癒を祈って着替えもせず、日夜香炉を捧げ持っている姿で、孝養像とも呼ばれ、胎内には30cmの木造太子像が納められている）。阿弥陀堂の正面に、本尊阿弥陀如来安置寺伝では親鸞作と言う。もと顔に面が付いていた事から、面掛阿弥陀如来像と名付けられている。武田没後は小田原北条にいらまれ寺は荒廃した。荒廃した寺・仏像を人々が軽んじ、穢（けが）しがちであった。そこで本尊阿弥陀如来は威厳をあらわし、馬上で門前を過ぎ去れば馬から落とし、礼もせず如来像の前に来れば倒してしまったと言う。人々が困っている時、一人の僧がやってきて尊像に面を掛けて尊顔を隔てたところ、たたりは止んだので面掛阿弥陀如来と呼んだと言う。市指定名木「犬槇・20m位」「大銀杏」。

14・南谷大わらじ（4～5m）

この道は鎌倉に通じる主要道路で、古くから道祖神が祀られていたと言う。旅の安全を祈ると共に道標ともなっていた。旅する人達は、此处で、休憩し、わらじを履き替え、又旅を続けたと言う。南谷の村の人々は昔から普通の小さなわらじを、この小さな森に献納し、村人の無事と旅人の安全を祈って来たと言う。そのわらじを旅人は自分の履いてきた古いわらじと履き替えて、古いわらじ、を松の木に、つるさげるようになったと言う。やがて名所として遠方の人々にも知られるようになり、何時の頃からか、村人総動員で大きなわらじをつくっては、村人と旅人の安全を祈願するようになり、今日に及んでいる。

このわらじと、一緒に道祖神・庚申塔・地神塔が造立されている。青面金剛は悪疫を調伏するものであった。此のわらじも村の入口に作って、巨人の住む里である事を示し、外敵、災いを防ぐ呪術（ジュジュツ）的な役割をもつものだ。と言う考え方もある。

第三十七回行程案内図

(舞岡公園～本郷ふじやま公園コース)

東戸塚(舞岡公園～下倉田コース)

